

令和3年度 学校関係者評価

高知県立幡多看護専門学校

1. 日時：令和4年6月18日 10:00～10:40
2. 場所：幡多看護専門学校 校長室
3. 学校関係者評価委員
 - 1) 幡多けんみん病院 経営事業部長
 - 2) 幡多けんみん病院 看護部長
4. 高知県立幡多看護専門学校 出席者
 - 1) 副校長
 - 2) 事務長
 - 3) 教務主任
5. 評価対象：令和3年度 重点項目の取組状況
6. 資料：1) 学校関係者評価委員会実施要領 2) 自己評価書 3) その他関係資料
7. 評価基準：4段階評価及び総評
 - 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
 - 3：達成できている（達成がみられる）
 - 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
 - 1：全くできていない（全く成果がみられていない）

評価結果

1 地域に貢献できる質の高い看護師の養成をめざす	自己評価	他者評価
①各学年の指導方針及び実施計画に基づき、個々の学生の状況に対応した指導、学習支援を行う。	3	4
②受験生全員が、看護師国家試験に合格する。	4	4
③実習受け入れ先である医療機関や施設と連携を深めるとともに、実習指導力を高め効果的な臨地実習を実施する。	3	3
④卒業生の県内定着率 80.0%を目指す。	4	4

<p>自己 評価</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症対応として、臨地実習の中止・校内実習への変更で、授業・実習計画の変更が余儀なくされる中、全職員による3学年支援チーム体制を継続して取り組んだ。また、感染防止策として密にならないように教室を分散し、換気、黙食を徹底するとともに、コロナ禍における個々の学生の健康管理等の状況を把握し、状況に対応した学習・生活支援を行った。特に3年生においては国家試験に向け、1月から1、2年生との動線を分け校内での学習環境を整えた。</p> <p>②1年次から定期的に模擬試験を実施するとともに、チューター制度を設けて成績が下位等の学生を個別に指導する等により、合格者26名/受験者26名=全員合格した。</p> <p>③主たる実習施設である幡多けんみん病院と定期的(年9回)に実習連絡会議を実施し、連携を深めて効果的な臨地実習を行っている。また、学生に課題があれば、その都度病院スタッフと情報共有する体制をとり課題解決等に取り組んでいる。</p> <p>④1年次からクラス担当・教務主任による就職・進学面接の実施、県奨学金活用の推奨等での意識付けや県内の病院を紹介するなどの支援を行っている。今年度の県内就職者22名/26名で84.6%で、目標としている県内就職率80%を超えることができた。令和2年(71.4%)より13.2ポイント上昇している。4名の内訳は、2名が愛媛県出身で愛媛で就職。1名は福岡で就職。1名は、結婚・出産により就職せず。となっている。</p>
<p>総評</p>	<p>コロナ禍で実習に支障の出る中、より一層学生への支援に尽力している。特に成績不振者への支援が素晴らしく、国家試験合格率100%を達成しており、質の高い看護師の養成という目標は十分達成できている。</p>

2 教員の教育力の向上を図る		自己評価	他者評価
①研究授業や日々の教務・実習ミーティングを計画的に実施し、教育内容・教育方法の精選及び教員自身のリフレクションを通し、教育力を高める。		3	3
②教員のキャリアに対応した研修を計画的に実施し、地域包括ケアを担う人材育成の観点やカリキュラム改正を視野に入れた研修を組み込み指導力を高める。		3	3
自己評価	<p>①概ね毎週教務ミーティング及び実習ミーティングを実施した。コロナの影響で、施設実習を校内実習へと急遽変更しなければならない状況となった時は、教員同士での情報共有し校内実習の内容を検討した。実習中に行う実習ミーティングでは、今起こっている事象に対して、何が問題か、どのように関わっていくか等、他の教員の視点や意見から対応策を導くことができている。研究授業に関しては、9月に県下の看護専門学校の教員を集めて行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での授業が出来なかったため実施することができなかった。</p> <p>②カリキュラムに関する研修は、看護協会主催の看護教員継続研修（5回シリーズの内1回が新カリキュラムに関する研修）に全教員が聴講し、新カリキュラムに対しての知識を深めた。他それぞれの教員のキャリアに応じて研修会に参加した。</p> <p>次年度は、新カリキュラムの1年次の評価を行いながら、2年次の講義、実習が滞りなく実施できるようにしていく。又、今年度出来なかった研究授業を実施し、授業方法や学生との関わり等教員としての能力の向上につながる研修を進めていく。</p>		
総評	<p>学生の教育と同様、こちらについてもコロナ禍の影響を受けており、苦慮している様子が伺える。そうした中でも教育の質の向上のため、できることから取り組んでおり、目標は達成できていると見て問題はない。</p>		

3 適正な学校経営・管理を実施する		自己評価	他者評価
①	自己点検・自己評価により抽出された主要課題については改善計画に基づき実施していく。(自己点検・自己評価委員会)	3	3
②	2022年のカリキュラム改正に向けて、新カリキュラムを作成する。(カリキュラム委員会)	3	3
③	南海トラフ地震対策は急務であり、学生の安全・防災教育の実施並びに評価を行う。(学校防災委員会)	4	4
自己評価	<p>①昨年度よりの課題であった、教育理念・目的について第5次カリキュラムの作成にあたり、以下のように修正を行った。(別紙あり)</p> <p>②新カリキュラムを作成し、県の主幹課に提出し承認が得られた。</p> <p>③学生の防災教育については、1年生は特別教育活動に計画し実施した。</p> <p>1年・県防災マップでの基礎学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路避難マップ作成 ・高知防災そなえちよき隊による南海トラフ地震に備える講話 ・genkidayo システムによる安否確認訓練 <p>2, 3年生についてはコロナ渦の影響で、災害時メディカルラリー及び幡多けんみん病院を中心とした大規模災害訓練は中止となった。</p> <p>全学年：消火、避難訓練</p> <p>様々な防災教育により、学生の防災意識は高められたと評価できる。</p> <p>いつ起こるか分からない災害については、引き続き、学校防災マニュアルに添って、校内点検及び災害用品の整備を行う。又、平日に安否確認システムを利用した訓練を行い、災害時に慌てずに行動出来るように備えていく。</p>		
総評	十分な取組が見られる。特に生徒への教育面においては申し分のない取組である。		